

Q：発言する子がだんだん決まってきました。全員が参加するような授業をするには、何かよい手立てがありますか。また、一問一答の授業になりがちなので、子どもたちから出た意見や感想から学習問題を作って、最後にまとめるような授業にしたいのですが、どのように進めたらよいですか。

A：一部の決まった子だけが発言して進んでいく授業を避け、できるだけ多くの子が発言し、全員が参加する授業を目指したいものです。その一つの対策として、二人組による対話学習を授業の中に効果的に組み込んでいく方法があります。この学習法は国語に限らず、他教科でも取り入れることができます。

アドバイス：

①二人組による対話学習を取り入れてみましょう

座席の隣同士の二人による話し合いです。学級全体の前で話すことに抵抗がある子でも隣の友達であれば話す抵抗感が薄れ、且つ二人なら必ず話す必然性が生じます。二人組で話し合っている間は、全員が授業に参加していることになるのです。また、二人組では体の向きを大きく変える必要がないので、教師も全体を見回して、うまく話し合いが進んでいないペアを見付け、支援することができます。一斉で話し合いをする前に、まずは二人で話し合うことで、自信を持って発言できる子が増えてきます。

②効果的な学習場面で取り入れましょう

単に答えを確認し合うという場面よりは、互いに意見を述べ合ったり、話し合いながら答えを導き出したりするなど、思考操作を伴う学習場面で効果があります。初めは簡単な課題から始め、慣れてきたら互いに質問し合う、討論し合う、二人の意見を協議し一つにまとめて合意形成を図るなど、段階を追って発展させることもできます。

③ルール（約束）を決めましょう

この学習では、話し合いのやり方で事前にルールを決めておくことがコツです。以下に例を挙げますが、学級の実態や発達段階に合わせて加えていきましょう。

ア 時間いっぱいまで話し合い、途中でストップしない。

「3分間」と指示をされたら、3分間話し合いを止めずに続けることを約束します。どうしても話し合いが続かない場合は、同じ内容を何回も繰り返してよいこととします。慣れてくると、自分たちで続ける方法を工夫するようになります。

イ 必ず双方とも話す。

どちらか一方が話すだけでなく、必ず交代して両方が話すようにします。時間が短い場合には、その配分も考えていくことが必要になります。

ウ 向き合って、相槌をうちながら聞く。

体の向きを少し変えさせて、向かい合う姿勢を取らせます。ノートや資料を見せ合いながら話し合う場合には、それに応じた姿勢を取らせていきましょう。

※ 対話学習の後には、その結果を学級全体の前で発表したいという意欲が高まります。また、全体の前でうまく話せない時には、隣の子が助け船を出すことを奨励しましょう。時には、隣の子がすごく良い考えを持っていたから聞いて欲しいと本人の代わりに手を挙げる子も出てきます。

※ 二人組→四人の小グループ→学級全体と話し合いの形態を変えていくこともできます。